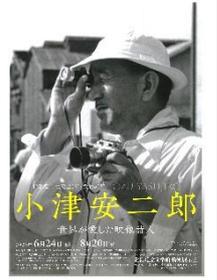


令和5年度の事業活動状況

1 展覧会事業（指定管理事業）

事業名	開催日	展覧会の概要	備考
【常設展】 北海道の文学	通年 【310日間】	・明治以降の北海道ゆかりの文学者や作品を直筆原稿や書画、色紙・短冊、稀覯本など貴重資料を中心に精選し、分野別に網羅的に、北海道の小説・評論、アイヌ民族の文学、詩、短歌・俳句・川柳等短詩型、児童文学などを紹介。アイヌ文学のコーナーに若干の追加を行い、充実を図りました。	
	<アーカイブ>	4月11日(火)～6月25日(日) 第1期 川上澄生の世界 7月11日(火)～10月1日(日) 第2期 川柳・斎藤大雄の宇宙 10月17日(火)～12月28日(木) 第3期 文学館コレクション新収蔵品から R6年1月16日(火)～3月24日(日) 第4期 来道歌人の詠んだ北海道	
【特別展】 ファミリー文学館 「ネコ！ねこ！ 猫！！Ⅱ」 <教育普及事業>	4月15日(土) ～6月11日(日) 【50日間】 <観覧無料>	・本展は2015年度に次ぐ開催で、本年度は新たな作品を加え、小説・詩・短歌・俳句・川柳、絵本・童話の中に描かれている猫を紹介。前回よりパワーアップし、親子で絵本を楽しめるコーナーも設け、子どもから大人まで楽しめる内容を目指しました。	
(関連事業)	朗読会、川柳句会、ワークショップ(親子、大人)、絵本の読み聞かせ		
【特別展】 「生誕120年 没後60年 小津安二郎～世界が愛した映像詩人～」	6月24日(土) ～8月20日(日) 【50日間】	・今や伝説の映画監督となっている小津安二郎(1903～63)の生誕120年、没後60年のメモリアルな年。英国映画協会の「Sight&Sound」誌の、10年に一度、世界の映画監督が選出する史上最高の映画部門で2012年に『東京物語』(1953)が第1位となるなど、世界的に注目され続ける映画監督。本展では、小津安二郎の人と作品について、貴重な資料により足跡をたどり、その全体像に迫りました。	
(関連事業)	講演会、対談、無声映画鑑賞会(「突貫小僧」「出来ごころ」)、映画上映会(「東京物語」「東京暮色」「秋刀魚の味」)		
【特別展】 『スーホの白い馬』の画家 赤羽末吉	9月9日(土) ～11月7日(日) 【52日間】	・絵本『スーホの白い馬』は、馬頭琴の由来を雄大なモンゴルの風景のうちに表現して、出版から55年余を経てなお、日本中の子どもたちに読み継がれています。赤羽末吉(1910～1990年)はこの絵本を始め、日本そしてモンゴルや中国の少数民族の民話を取材し、80年の生涯で80冊もの絵本を発表しました。赤羽末吉の画業を紹介しつつ、独特の「雪」の表現や、アイヌの民話を取材した「けちんぼおおかみ」についても注目しました。	
(関連事業)	講演会、ギャラリー・ツアー(展示解説)、読み聞かせ&ワークショップ、馬頭琴演奏と朗読の会		

事業名	開催日	展覧会の概要	備考
【特別展】 「左川ちか 黒衣の明星」	11月18日(土) ～令和6年 1月21日(日) 【51日間】	・北海道余市生まれの詩人・左川ちか(1911～1936年)は、小樽の高等女学校を卒業後、上京し、兄の友人で同郷の伊藤整らとともに、新しい詩の形を求めて翻訳や詩作を開始しました。故郷の景色を詩想へと昇華しながら、J.ジョイスやV.ウルフなどの翻訳も時代に先駆けて行い、優れた言語感覚と独自の美学によって当時のモダニズム詩壇の最前衛に立ちました。本展では、近年、再評価の機運が高まる左川ちかの短くも鮮烈な生涯とその詩の世界を、北海道の風土と文芸、モダニズム詩壇の興隆、翻訳の時代、現代における再生といった視点で探りました。	 Sagawa Chika
(関連事業)	講演会、ポエトリー・リーディング、対談、映画上映会「外人部隊」		
【特別展】 「100年の時を超えるー<明治・大正期刊行本>探訪」	令和6年 2月3日(土) ～3月24日(日) 【44日間】	・当館では、明治・大正期に刊行された書籍を数多く所蔵しており、それらの中には、現在では貴重な初版本もあります。また色鮮やかでモダンな装幀の本であったり、さらに当時の社会情勢が反映された内容だったり、時代の息吹を感じさせるものばかりです。2026年は大正が幕を閉じて100年を迎え、それに先立つ本展では、有島武郎、石川啄木、萩原朔太郎、三木露風、宮沢賢治、室生犀星、与謝野晶子など道内外の明治・大正期の著名作家の作品をピックアップし、刊行からおおよそ100年の歴史をもつ所蔵本を一堂に紹介しました。	
(関連事業)	ミニ展示解説&朗読会、コンサート		

2 教育普及事業

(1) 負担金事業（指定管理事業）

事業名	実施時期	事業内容	備考
夏休み文学道場 中高生のための 創作講座	8月9日 (1日間) 動画配信 7/21～8/24	・中学生、高校生を対象に創作する上で必要な心構えと文章技術の両面に及ぶ実践的なワークショップを実施。動画配信と集中講義形式で、現在活躍中の作家・小路幸也氏から直接、作品を創作するためのアドバイスを受け実作を試みました。	
北海道小中高 生短歌コンテ スト	7月1日～ 9月12日	・道内の小中高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するほか、応募があった優秀作品を、ロビーに展示。 ・審査結果発表 10月31日<ホームページ上にて> ・表彰式 12月17日	

事業名	実施時期	事業内容	備考
～わくわく～ こどもランド	5月～3月 (16回)	・幼児、小学生と保護者を対象に文学館に親んでもらうための教育的事業として、紙芝居、絵本読み聞かせ、人形劇、工作教室など幅広い内容の事業を実施。	
映像作品鑑賞 のつどい	6月25日 8月27日 11月19日 2月18日	・文学館が道民に親しまれる文化施設となるため、文学館にあまり足を運ぶ機会のない人を対象として、文学性、娯楽性、作品としての完成度などを総合的に勘案して開催。 ○「東京物語」、「青春の海」、「乳房よ永遠なれ」、「燃えよ剣」	
出前講座	5月～12月	地域の文学振興を図るため、文学館に足を運ぶ機会の少ない地域を対象として、市町村(図書館、公民館等)、文化団体、学校等との共催で、財団の役員等を講師やアドバイザーとして派遣し共催で事業を実施。 ○教育委員会(伊達長生大学、稚内市立図書館、平取町中央公民館、深川市立図書館、芦別市立図書館、蘭越町花一会図書館、函館市文学館、当別町ことぶき大学、上士幌町生涯学習センター、新得町公民館、認定こども園向陽台つくし幼稚園、千歳市立図書館、苫前町公民館、占冠村コミュニティプラザ、足寄町民センター、釧路文学館)、札幌市中央区介護予防センター旭が丘、道立学校(手稲養護学校、函館盲学校、札幌聾学校、七飯養護学校、夕張高校、美唄養護学校、苫小牧総合経済高校)、帯広南商業高校、高文連旭川支部文芸専門部	
ミニ巡回展	3地域	地域の文学振興を図るため、文学館に足を運ぶ機会の少ない地域を対象として、市町村(図書館、公民館等)、文化団体、学校等との共催で、文学資料や展覧会で使用したパネル、キャプション等を貸出しする事業を実施。 ○苫前町公民館、今金町民センター、厚岸情報館	
文字・活字文化の日関連事業	10月29日 (日)	文字・活字文化の振興を図るため、文字・活字文化の日(10月27日)の趣旨にふさわしいテーマの講演会を開催。 ○ルーマニア・マラムレシュ―中世の化石―(みやこうせい)	
古典の日記念朗読会	11月3日 (木・祝)	古典の日(11月1日)制定を記念して広く古典について関心と理解を深めるため、古典(堤中納言物語)を読む朗読会を開催。	

事業名	実施時期	事業内容	備考
月例朗読会	5月～3月 (第3木曜日・10回)	常設展をPRするため、朗読グループ(ボランティア)の協力を得て、北海道ゆかりの作品などを中心に月1回開催。 ○「北の響～名作を声にのせて」	
カルチャーナイト2023	7月22日 (金)	札幌市内の公共・文化施設や企業施設が1日だけ夜間開放するカルチャーナイトに参画し、夜間開館。 ○常設展無料開放、ミニコンサート、古書バザールを実施。	
資料閲覧・研究支援	通年	本道ゆかりの作家の作品を直接手に取り、鑑賞・研究を支援するため、閲覧室に司書を配置。	

(2) 財団自主事業

事業名	実施時期	事業内容	備考
文学館カレッジ	5月～3月	広く文化全般をテーマに、各分野の先端の知識を学ぶ講座を開設 ① 北海道文学アラカルト ・「宮沢賢治を深く読むⅡ」 ・「俳句・川柳の世界」 ② 絵本を学ぶーSDGsから絵本を見る ③ 生涯読書会「大江健三郎を読む」から古典へ ④ 続・永井荷風の日記を読む	
芸術週間関連事業	11月1日～7日(芸術週間)	・当館の周知を図るため、あまり足を運ぶ機会の少ない人を対象にアマチュア演奏家によるチェロとクラシックギターによるコンサートを開催 11月1日(水) クラシックギターのデュオによる演奏 11月3日(金) クラシックギターの独奏 11月5日(日) チェロの独奏 ・みやこうせい写真展「マラムレシュ・世界の中心」を地階ロビーで開催(10月29日～11月7日)。	 

事業名	実施時期	事業内容	備考
ロビー展示	4月～3月	<p>文章パネル・写真パネルなどを展示し、北海道文学への誘いとして文学への関心や常設展・特別展の観覧を促すことを目的として開催</p> <p>①4月8日(土)～7月5日(水) 「鉄道・北海道の風景 PART 1」</p> <p>②7月8日(土)～9月10日(日) 「鉄道・北海道の風景 PART 2」</p> <p>③9月30日(土)～11月23日(木・祝) 「鉄道・北海道の風景 PART 3」</p> <p>④令和6年1月20日(土)～3月10日(日) 「北海道ゆかりの文学 2023 主な受賞者とトピックス」</p>	
ぶらり文学散歩	7月4日 10月20日 10月31日	<p>北海道ゆかりの作家の足跡や美術作品などを歩いて紹介。</p> <p>① 北海道開拓の村(厚別区)</p> <p>② 札幌護國神社～中島公園～文学館 ※雨天のため文学館講堂</p> <p>③ エドウィン・ダン記念館(南区真駒内)</p>	 
文学館まつり	9月23日 (土・祝)	<p>開館記念日に、文学館に親んでもらうため、ミニイベントを開催。常設展は無料開放。</p> <p>① ミニコンサート「itakramat(イタクラマツ)ことばのたましい」</p> <p>② トーク「『アイヌ神謡集』刊行 100 年に際して」(平原一良氏)</p> <p>③ 講演会「カムイユカラにかけた想い～幸恵さんの夢をもとめて～」(小野有五氏)</p> <p>④ 親子手作りコーナー「ゆらゆらアニマルをつくろう」</p> <p>⑤ 秋のミニ色紙作り</p> <p>⑥ 一日限りの資料公開「アイヌの昔話絵本の展示」(萱野茂・手島圭三郎ほか)</p>	  
中島公園ぶんがく縁日	10月8日 (日) 9日(月・祝)	<p>文学関係者や愛好者を含め、多くの人たちが文学館に親しみ利用してもらうことを目的に文学関係の同人誌・結社誌・個人誌や自著のフリーマーケットを開催し、講演会なども開催。</p> <p>○絵本交換会、講演会、フリーマーケット(書籍等)</p>	 